

## 上田女子短期大学第39回児童文化研究大会報告

日 時：平成27年 1月31日(土)

会 場：上田女子短期大学 20番教室

講 演：「美術(美術館)の役割と鑑賞教育について」

講 師：佐藤聡史さん  
(東御市丸山晚霞記念館学芸員)

### 講師紹介

- ・ 神奈川県藤沢市出身 神奈川大学卒業
- ・ 2006年丸山晚霞記念館開館・梅野記念絵画館学芸員を兼務(～2013年)
- ・ 2007年アメリカ・アレナス<sup>\*</sup>を招聘した研修会開催。県内で対話型鑑賞の先駆的活動を開始(※アメリカ・アレナス=ベネズエラ出身の美術史家。Momaの教育普及担当キュレーター時代に「対話型鑑賞」を実践。日本でもこの鑑賞法が紹介され、鑑賞教育にまつわる書籍を執筆する傍ら、アメリカ、ブラジル、スペイン、日本など世界の美術館や学校で講演、ギャラリートーク、対話型鑑賞教育の指導を行う)以後、美術館と学校の連携に取り組む
- ・ 2009年大学美術教育学会事務局(～2014年)
- ・ 2014、2015年 静岡大学アートマネジメント講座講師(鑑賞教育)

### 内容

平成28年度の児童文化研究大会は、主に幼児教育学科の教員の学習機会として小規模な講演会とした。外部からは上田市立美術館やキッセイ文化ホールなどの学芸員と鑑賞教育に興味がある6名の参加があった。美術に関わる内容は大会初であった。まず美術館の役割として地域や学校における出張講座やアート・イベントの開催などの活動報告の後、参加者全員で対話型鑑賞を行った。

普段何気なく観ている作品も改めて絵から受けるイメージを言葉や物語にすることで、今まで観えなかったものが観えてくることに気付き、より興味が湧くことを体験した。楽しく有意義な時間を過ごすことが出来た。